

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/04 ～2019/09/30 )

### 1. 勉学の状況

授業については文法の授業を二つと、Cultura de masas Asia oriental という東アジアの文化についての授業の三つを受講することにしました。文法の授業は苗字に合わせて受ける曜日が決まっており、週に二度同じ授業が開講されますが、最初はうまく聞き取ることができないので二回とも出席しています。東アジアの文化についての授業は、あと二週間後にグループでプレゼンテーションがあります。しかし、東アジアに興味がある学生たちの授業のため、比較的友達も作りやすくグループにも入れてもらえました。少し不安ではありますが、わからないところは親切に教えてくれるのでプレゼンテーションでは自分にできることを頑張りたいと思います。

授業では教授の言っていることはさることながら、黒板に書く文字も独特で何と書いているかわからず満足にノートも取れません。しかし、スペイン人の隣に座り、自己紹介などをして仲良くなった後にノートを写させて欲しいと頼むとみんな快く見せてくれます。新しい友達もできるうえ、授業に後れを取らないようにするこの作戦はなかなかいい考えだと思うので、ぜひ真似してほしいと思います。

まだスペイン語を長時間聞き続けるということに耳も頭もついていかず、集中して教授の話に耳を傾けても分からない単語がたくさん出てくると集中力が途切れてしまいます。教授が言うようにシャドーイングを試みたり、毎日継続してラジオを聞いたりしていますがまだ効果は感じられません。

こちらの大学には驚くことに日本語を学んでいるスペイン人がたくさんいます。留学に来た日本人と現地の学生との交流会も設けられており、友達を作ることに苦労はしていません。しかも、スペイン人の日本語はとても上手でいつも驚かされるほどです。積極的に遊びにも誘ってくれ、履修登録時など困ったときは助けてくれたり、放課後カフェに行ってスペイン語を話す練習にも付き合ってくれたりします。しかし、言ってしまうとスペイン語を全く話さずともコミュニケーションが容易に取れてしまうという環境があるということです。それでは留学に来た意味がないため、日本人よりはスペイン人と、日本語よりスペイン語を話すんだという強い意思を持って生活していくことが大事だと考えました。

大学での授業は三つと少ないため、別に語学学校に通うつもりです。先輩から教えていただいた、半年で 180 ユーロという激安の語学学校があるのでそこに通えるようになればよりスペイン語に触れる機会も増え、上達のスピードが速くなるのではないかと思います。

ここに来て私が強く思うことは英語を話せてよかったということです。英語に頼りすぎではスペイン語の上達が遅くなると言われましたが、私はあまりそう思いません。確かに便利な英語に依存してしまうのは良くありませんが、例えば緊急事態の時、私と同じようにスペイン語があまり話せないヨーロッパの留学生とコミュニケーションをとる時、英語と発音が似ているがスペイン

語での単語が思い出せなかった時などに受け取ることのできる情報量が圧倒的に違いました。英語を使うことで危機を脱することができたり、相手とより深いコミュニケーションが取れると判断した場合には英語を使うべきだと思いました。英語をそのまま訳した言い回しをスペイン語でよく使っていたり、語源が一緒の単語も多くあるため、英語を介して理解したほうがしっくりくるときもあります。これからも上手く英語を活用しながらスペイン語学習に役立てていこうと思います。

## 2. 生活の状況

スペインに到着して二週間が経過したころ、財布を無くしました。落としたのか掏られたのかはわかりません。中にはクレジットカードと日本のSIMカード、おろしたばかりの200ユーロが入っており一瞬で私は無一文になりました。警察にも届け出を出し、見つかり次第連絡が来ることになっていますが未だに連絡は来ません。ひとまずのところ、一緒に留学に来ていた友人にお金を借りましたが、彼女にも月々キャッシュで引き出せる額が決まっていたため、再発行したカードがスペインに届くまで借り続けることは厳しく途方に暮れていたところ、奇跡が起きました。去年、サラマンカ大学に留学に来ていた先輩が偶然にも旅行で訪れており、クレジットカードを貸してくれました。本当に奇跡のようなタイミングです。今はそのカードに両親がお金を振り込み生活することができています。

どうやら私はスペインでお金に縁がないらしく、マドリードの空港に降り立った時、スペインのSIMカードを購入したのですが後から日本人留学生たちに聞いたところ、空港ではなくサラマンカで購入すれば私たちが購入した半額以下の値段で購入できたようです。しかもなぜか日本の番号に電話を掛けることができず、カードを再発行するときに大変苦労しました。

そしてこれは完全に私のミスなのですが、空港からサラマンカへ向けてのバスのチケットを購入するときに、出発時間も席数もギリギリであったため慌てて購入したところ、出発場所が空港ではなくマドリード市内であったため泣く泣く諦め、また25ユーロ支払って券を買いなおしました。

到着早々、手痛い出費が続く、今もカードがきちんと手元に届くのか不安で眠れない日々もあり、いろんな意味で瀬戸際を生きているような状況ですが、この経験をしかと胸に刻み同じ過ちは二度と繰り返さないようにしたいと思います。

さて、次に住居についてですが私はエクアドル出身の大家さんとその11歳の娘の下でホームステイをしています。とても優しく、家庭料理もおいしく、束縛されるようなこともないためとても快適に暮らしています。財布を無くした時も、一緒に探してくれて警察まで付き添ってくれました。今は言っていることがうまく聞き取れず、話せず、苦しい思いをすることもあります。五か月後には、本当の家族のようになれたらいいなと一つの頑張る指標となっています。

この一か月、最初の月にしては起こりすぎるぐらい様々なことがありましたが、人との出会いや巡り合わせに感謝する一か月となりました。先輩たちが築いてきたコミュニティ、一緒に留学に来た友人、現地の学生やホームステイ先の家族みんなに支えられて、今の私が生活できていると

いうことを実感しています。今はただ貰うばかりで何一つ返すことができていませんが、いつか何らかの形で彼らに恩返しができたらいいなと思っています。まだまだ留学は始まったばかりです。悲観的にならず、また一つ成長できたという自身の糧にして明日からもまた頑張ります。

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/10/1～2019/11/30 )

### 1. 勉学の状況

早いもので大学の授業が始まって3か月が経とうとしていますが、9月の頃に比べて教授の言っていることが何となくわかるようになってきたという実感があります。最初の頃は、メモしなくてはいけないところでも、周りの人が書き始めたのを見て書き始めていましたが、最近はこちらから大事なことを言うぞ、という教授の言葉が聞き取れるようになったためみんなと同じようなタイミングで書き始められるようになりました。しかし、まだその内容を完璧に書き取れるようにはなっておらず、授業後に友達にノートを見せてもらっています。

東アジアの文化についての授業ではこの間グループでの発表が行われました。留学生はパワーポイント作りに参加すれば発表する必要はないと言われましたが、グループのみんなが私にも言えるような簡単なパートを任せてくれて、とても短い文ではありましたがクラスの前で話すことができました。緊張しましたがそうした経験をさせてもらえたことはとてもありがたいなと感じました。

大学の授業以外に通っている語学学校は週に4～5日、1日2時間の授業があり、受講している生徒もみな外国人であるためスペイン語を学びつつ、他国の文化も知ることができとても楽しいです。授業内でよく日本の文化や制度についても質問される機会も多いのでその度に、自分のスペイン語能力の足りなさを痛感しています。留学に来るとその国の文化を肌で感じることはもちろんですが、日本の文化についても改めて考える機会が多くあります。日本人と初めて話す外国人であれば私の意見が日本を代表する意見と捉えられても仕方がないので、日本のことを相手に伝えるときにはより慎重に答えなければと思っています。

また、千葉大学文学部の私が所属する学科では3年次論文があり、1月には提出しなくてはならないので、スペイン語学習に加えてまた新たなプレッシャーがありますが、12月はまた気を引き締めて頑張りたいと思います。

### 2. 生活の状況

9月に財布を無くし、一時はどうなることかと思いましたがいろいろな方の助けを借りて10月には無事新しいカードが届きました。お金の面での心配事がなくなったことは精神的にも楽になり、この2か月は充実した生活を送っています。財布を無くした後のトラウマとして、日に何度も財布があるかどうか確認するようになりましたが、良い紛失防止策になると思っています。これから留学に行く皆さんには決して同じような思いをしてほしくないなので、カードは3枚ほど日本から作っていくこと、財布を決してポケットに入れたりしないことを強くお勧めします。11月初めにポストンキャリアフォーラムに参加してきました。3年生で留学に行く学生は多いと思うので就活を心配している方にはこのイベントに参加することをお勧めします。簡単に説明す

ると、3日間のイベントで面接などをこなし、うまくいけば企業から内定をもらえるというものです。事前準備もあり、留学生活と両立するの厳しかったのですが満足した結果が得られて行ってよかったと思いました。

友人関係も最初の頃はたくさんの人に話しかけ、だれかれ構わず友達になっていましたが最近はそのうち落ち着いてきて、決まった友人といることが多くなりました。授業の後に毎週カフェに行ったり、週末と一緒に飲みに出かけたりと素敵な友達ができ、落ち着いて話ができる環境ができたことはとてもうれしく思います。こうしたことができるようになったのも自分のスペイン語が上達し、ある程度話せるようになったからではないかと思っています。

また、サラマンカに20年以上住んでいる日本人の方と知り合う機会があり、ワインが大好きな私はサラマンカにある美味しいお店をたくさん教えていただいたり、ワインの試飲会にも連れて行っていただいたりと、趣味の面でも充実した生活を送ることができています。

9月から怒涛のように3か月が過ぎて、時の流れの速さを節目節目で実感しています。留学生活も折り返し地点に差し掛かり、残された時間でどれだけ成長できるかが勝負なので、楽しみながら、そして勉強するべき時はきちんと勉強し、メリハリをつけた留学生活を送っていきたいと思います。

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/12/1 ～2020/2/14 )

### 1. 勉学の状況

前期の授業が終わり、テスト期間がありました。比較的留学生に易しい授業を履修していましたが、テストとなると今までの授業の範囲全てを理解していなくてはならないのでテスト勉強はとても大変でした。私は、文法の授業を二つと東アジアの文化を学ぶ授業のテストがあり、文法の授業はテスト形式、東アジアの文化の授業は、プレゼンテーションに加えてレポートを提出するといったものでした。特に、レポートを提出する授業は大変でしたが、仲の良いスペイン人の友達と一緒に勉強会をしてわからない部分を教えてもらったり、スペイン語の文の添削をしてもらったりと助けられたおかげで良い成績を取ることが出来ました。

また、語学学校のテストもあり、そのテスト内容は筆記に加えてリスニングとスピーキングもあるものでした。スペイン語の能力を正式に試すことがスペインに来てから初めてのことであったのでとても緊張しました。しかし、特にスピーキングのテストで自分の意見をスペイン語で話す場面では、思ったよりも自分の意見をスペイン語でしっかりと話すことが出来て、成長を感じることが出来ました。結果は無事、合格することが出来て自信をもって帰国できるなと思いました。

半年間の留学では、聞いたことを100%理解して、100%自分が伝えたいことを言葉にできるようにはなれませんでした。ある程度自分のことは自分で出来る、聞ける、話せるぐらいには成長できたと思います。私は高校の頃にアメリカへ一年間留学した経験があり、その未熟さから、当時は周りに頼れる友人も少なく、日本人もおらずとても孤独な思いをしました。しかし、今回の留学では頼れるスペイン人、日本人の友人が大勢出来て、とても精神的に支えられ、充実した留学生活を送ることが出来ました。今まで留学とは辛くて厳しい面のほうが多いと感じていましたが、そうした人たちと出会えたことで私の留学は本当に楽しく満足のいくものとなり、とても感謝しています。

### 2. 生活の状況

クリスマスには仲の良いスペイン人の友達の実家に泊まりに行き、スペインのクリスマスを過ごすという貴重な経験をしました。美味しいご飯、美味しいお酒を沢山ふるまってくれたり、家族ではない私にもクリスマスプレゼントを用意してくれたり、私も家族の一員になったような気がしてとてもうれしかったです。お正月も、知り合いのスペイン人の家族と一緒に年越しを迎えましたが、緊張からか腹痛で美味しいご飯もワインもあまり堪能できなかったことが心残りです。しかし、現地でのクリスマスやお正月の過ごし方を直に体験することが出来たことはとても貴重なことで、良かったなと思います。

また、旅行もたくさんしました。ようやくクレジットカードも手元に届き、もう二度と無くさないように用心しながら旅行を楽しみました。ドイツ、フランス、ポルトガル、イタリア、スペイン国内の都市などなど。イタリアとポルトガルは一人旅行だったのでいつも以上に気を引き締めて行動しました。留学をして、度胸がついたなと実感しています。臆さず人に話しかけたり、行動することができ、以前の自分では尻込みしてしまっていたようなことでもこの留学を通してできるようになりました。

ホストファミリーも私を本当の家族のように接してくれました。家を出るときには、電車の中でお腹がすいたら食べなさいと、大家さんが手作りのパイをタッパーいっぱいを持たせてくれたことに愛情を感じ、留学中ここに住めて良かったと心から思いました。

留学早々、財布を無くすというハプニングがあったり、ボストンで就職活動をしたりとかなり波乱万丈な留学だったと振り返ってみて思いますが、友人や家族に助けられてとても濃い半年を過ごすことが出来ました。これからもスペイン語の勉強は怠らず、いつかまたスペインへ行くようになることを信じて励もうと思います。